

## 島根県出雲市の現場から

堀西 雅亮

「堀西さん、今日は交流会に誘ってくれてありがとうございます。すごく楽しかった。でもね、これが終わると、また寂しくなるんですよ。僕はね、友だちになりたいんですよ…」

現在私が住んでいる島根県出雲市は、人口約17万5千人、その内の2.7%にあたる約4,700人が外国籍の市民です。国籍別では、ブラジルがおよそ7割を占め、次いでベトナム、中国、フィリピン、韓国、ミャンマー…と続き、その国の数は34か国に及びます。2008年に出雲市に在住していた約2,300人の外国籍市民は、その年の「リーマンショック」により約1,700人にまで減少しました。その後2014年から2019年にかけては、大手メーカー企業の労働需要の増加などを背景に一気に増加、2019年には減少に転じますが、現在では再び増加傾向にあります。

さて、「多文化共生」について語られる場面では、上記のような数字や記述を目にすることが少なくありません。もちろん、「国籍や民族などの異なる人々が～」と定義（2006年総務省報告書）されていますから、国籍別人口やその推移などは大事な指標でしょう。しかし一方で、その数字や見方は、「共生」に向けたほんの入口に過ぎないと、私は思っています。

冒頭に書いたのは、共に出雲で暮らしている、ある方の言葉です。静かな笑みを浮かべながら発せられたその言葉の向こう側には、どんな感情があったでしょう。とまどい、感謝、申し訳なさ、やるせなさ…どんな言葉を並べても完全には言い表すことのできない、そんな思いを、私は感じました。別の方からは、こんな言葉も聞きました。「日本人どうしたと『交流』って言わないでしょ。なぜ日本人と外国人だと『交流』なのかな」。

自分のまちに外国籍市民が増え、それまで意識していなかった「外国人」を意識するようになり、「日本人」との間に線が引かれます。言葉や文化のちがいに不安を覚え、ときに偏見や差別も生じていきます。その中でたまたま、「外国人」ではなく「○○さん」と出会い、「日本人」と「外国人」の間に線を引くことがごく一面的な見方であったことに気づき、その線を取り除いたり、もっともっと多様な線として引き直していったりします。そして、この社会に暮らす私たちが、もともと多様だったのだと知らされ、従来の社会のシステムが一部の人々を「イレギュラーな存在」に追いやっていたことに気づかされていきます。

その社会のシステムを、多様な市民が本当に安心して生きることができるように変化させていくこと、この社会を、多様な生き方に合う、多様な人々が包摂されている社会に変えていこうとすること、それこそが、「多文化共生」という営みなのだと思います。決して「外国人」と「日本人」の「共生」ではないと、私は思います。



出雲市では、2016年に策定された「多文化共生推進プラン」も後押しとなり、行政や学校、地域コミュニティ、NPO、企業などで、「共生」に向けた取り組みが進みつつあります。一方で、従来の社会のシステムを維持したまま、そこに入れるように「外国人」を「支援」する状況があることも事実です。誰ひとり「イレギュラーな存在」にしない社会への取り組みは、始まったばかりです。

それでも、「交流」を超えて、共に地域活動に参加する大人たちや、サッカーチームで共にプレーする子どもたちの姿も見られるようになりました。大学生や高校生が、子どもの居場所づくりの活動に加わったり、「多文化」に関わる様々な団体・機関が、このまちの将来の姿を共に語り合ったりする機会もできました。

〇〇地域の人数、△△サッカーチームの戦績、□□高校の活動…例えばそのような数字や記述、「線引き」の中に、多様な人々が包摂されている—そういう社会になるのは、決して遠い将来のことではないと思います。あの方が「友だちになりたいんですよ」と言わなくてもいい社会へと、少しずつですが着実に、変化しています。そしてそんな社会になったとき、「私自身」もまた、包摂されている安心の中で生きることができるのだと思います。

島根県出雲市の現場からは、以上です。

堀西 雅亮（ほりにし まさあき）：

日本語教師などを経て、1997年より約10年間、外国人研修生・技能実習生の受入れに従事。2006年～2008年、NPO法人多文化共生センター大阪にて職場の多文化共生推進に取り組む。2010年、NPO法人エスペランサの設立に関わり、以後島根県出雲市を中心に、日本語学習支援、外国にルーツをもつ子どものサポートなど、多文化共生の地域づくりに携わっている。島根県外国人地域サポーター。浄土真宗本願寺派僧侶。



「塩冶地区放課後子ども教室」のスタッフの方からお話を伺う（正面左が堀西さん）



出雲市フィールドワークにて（中央が堀西さん）

\*堀西雅亮さんには、2020年10月に行った島根県出雲市のフィールドワークのアドバイスや訪問先の調整など多大なご協力を賜りました。